

## 合意事項

関西3空港懇談会は、関西の総意として、以下合意する。

1. 関西国際空港は、首都圏空港（羽田、成田）に並ぶ日本の二大ハブ空港と位置づけられるべきであり、国にその役割の明確化を求めるとともに、その機能強化に向け、国への働きかけを関西全体で更に強めていく。
2. 関西国際空港、大阪国際（伊丹）空港、神戸空港の運用最適化により、関西全体の航空需要を拡大させるための中期戦略として、関西3空港の「一元管理」を目指す。今後、一元管理の具体化策を検討し、できるものから順次実施していく。
3. 一元管理の検討に当たっては、公的機関の関与を前提に、関空会社を管理主体とすることを基本として議論を行う。将来の経営統合も念頭において空港運営に関する事業全般を可能な限り幅広い範囲で受託することを目指し、平成23年度からの実現を目指して関連法改正等の具体的内容を詰めていく。
4. 関西3空港の将来のあり方については、需要予測等のデータ検証とともに、関西広域連合（仮称）設立の取り組みも踏まえ、引き続き検討を行う。国土交通省の成長戦略会議での関西3空港のあり方の見直しの検討に関西の総意が適切に反映されるよう、作業を加速させ、本年度内を目途に結論を得るようにする。
5. 関西国際空港に対する補給金160億円の予算は、財務構造の抜本改革実現までの間、関西国際空港を国際競争力ある空港として維持運営していく上で必要不可欠なものであり、国土交通省の要求通り、満額予算化すべきである。

以上